

土器の出現

縄文時代は、土器を使い始めた時（約1万2千年前）から弥生時代が成立する（約2千3百年前）までの期間をいいます。人々は粘土をこねて形をつくり低い温度で焼く土器をつくるようになります。昭和35年、松浦市の隣町である北松浦郡吉井町（現佐世保市）の福井洞窟^{とくくつ}からおよそ1万2千年前の地層から土器の破片が見つかりました。紐のようにはばした粘土を土器の表面に貼り付けた模様が盛りあがった線のように見えるので、隆起線文土器^{りゅうきせんもん}と呼ばれています。それまでは、世界で最も早く土器がつくられたのは西アジアで約7千年前だといわれています。福井洞窟の隆起線文土器は日本で最も古いだけでなく、世界で最も古い土器となりました。

その後、昭和48年、佐世保市の瀬戸越の泉福寺洞窟でおよそ1万3千年前の土器の破片が見つかりました。豆粒^{まめつぶ}くらいの大きさに粘土を丸めて土器の表面に貼り付けて模様にしていたので豆粒文土器^{まめつぶもん}と呼ばれています。土器が日本で発明されたかどうかはまだ分かっていませんが、現在のところ私たちが住んでいるこの長崎県北部一帯が世界でも最も早く土器がつくられた地域のひとつになります。



泉福寺洞窟（国指定史跡）

「長崎県の文化財」より



コラム

バレリー先生
(アメリカ出身)

"Hanami" in Matsuura 松浦での花見

私はアメリカのカリフォルニア出身ですが、子どものころはノースカロライナで過ごしました。九州とノースカロライナは、気候がとても似ていて、春になると桜、ハナミズキ、ツツジや藤の花が咲きます。ですから、日本に来ることは、私の幼いころの家に戻るようでした。

一年ほど前、日本に来ると決まった時から桜の花が咲くのを見たいと思っていました。日本文化を知る前から、私は桜の時期になると公園の桜の花の木の下に座って、その美しさを楽しんだものです。後に大学で、日本では花見が特別であるということを知りました。

今年の春、私は桜の花の開花時期に東京の上野公園に行きました。桜はとても美しく、公園は花見を楽しんでいる人々でいっぱいでした。しかし、とても込んでいて、慌しくて期待したほどではありませんでした。その後、松浦に戻ると、私は家の近くの公園へ行きました。そこの桜の花は、とても美しかったです。私が望んだとおり、静かで、平和で、私はとても幸せな気分になりました。

